

本報告書は、[令和5年5月25日に公表した報告書](#)を、[令和6年1月25日に公表した正誤表](#)により訂正したものです。

船舶インシデント調査報告書

令和5年4月19日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	座洲
発生日時	令和4年11月2日 19時08分ごろ
発生場所	秋田県能代市能代港 能代港外港南防波堤灯台から真方位052° 1.6海里付近 (概位 北緯40° 13.1′ 東経140° 00.4′)
インシデントの概要	交通船 ^{レッド スターツー} Red Star IIは、航行中、浅所に座洲した。
インシデント調査の経過	令和4年11月8日、主管調査官（仙台事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	交通船 Red Star II、130トン
船舶番号、船舶所有者等	144096、Akita OW Service 株式会社
乗組員等に関する情報	船長、一級（航海）
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
インシデントの経過	<p>本船は、船長ほか2人が乗り組み、能代港内の着岸順の都合で、着岸岸壁西方の広い泊地に向けて西進中、入航船が予定より早く到着して着岸岸壁前面の泊地で行き会うこととなり、入航船との距離を保とうと右舷方に寄って航行していたところ、着岸岸壁前の水深7mの泊地と対岸の未浚渫の泊地の境界付近の浅所に座洲した。</p> <p>本船は、僚船によってえい航され、能代港に着岸した。</p> <p>船長は、入航船と行き会う際、レーダーと目視により、入航船の動静のみに意識を向けており、水深が確保されていると思って航行し、着岸岸壁前の水深7mの泊地と対岸の未浚渫の泊地の境界付近を航行していることに気付かなかった。</p> <p>本船は、ECDIS（電子海図情報表示装置）を搭載していた。</p>
分析	本船は、能代港において西進中、入航船と行き会う際、船長が入航船の動静のみに意識を向けて着岸岸壁前の水深7mの泊地と対岸の未浚渫の泊地の境界付近を航行したことから、浅所に座洲したものと考えられる。
原因	本インシデントは、夜間、本船が能代港において西進中、入航船と行き会う際、船長が入航船の動静のみに意識を向けて着岸岸壁前の水深7mの泊地と対岸の未浚渫の泊地の境界付近を航行したため、浅所に座洲したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、慣れた海域であっても、ECDISを十分に活用して船位や水深を確認して航行すること。 |
|--|---|